

136.血液ガス検査にて一酸化炭素結合ヘモグロビン濃度高値を呈した症例に対する後ろ向き研究

研究の概要

血液ガス検査の一酸化炭素結合ヘモグロビン濃度の数値が高い患者さまの特徴を過去のカルテを調べて解析して今後役に立てるための研究です。

研究の目的と方法

血液ガス検査の一酸化炭素結合ヘモグロビン（COHb）濃度の数値が高い患者さまは、めまい、ふらつき、嘔気などを訴えて救急外来を受診されることが多いのですが、一酸化炭素中毒と診断されているとは限りません。

2020年4月1日から2021年3月31日までに当院で測定した血液ガス検査、約2万件の中から、COHb濃度の高値を呈した患者さまの情報を電子カルテより収集して、その特徴や経過などを調べます。約数十例以上数百例未満の患者さまが対象になります。

本研究の参加について

該当する患者さまの電子カルテ上の情報を、当方で集計させていただきますので、改めてアンケートに答えていただいたり、同意書をいただいたりすることはございません。ご参加の御意志をあらためて確認することもございません。

個人情報はずべて匿名化して報告させていただきますので、個人のプライバシーは守られています。万一、この調査に参加したくない患者さまがいらっしゃいましたら、当方にご連絡いただきますと集計からはずさせていただきます、調査を中止させていただくことが可能です。ただし学会発表後や論文の報告後は集計からはずすことは現実的に不可能になります。

調査する内容

測定年月日、年齢、性別、診療科、血液ガス分析データ、診断名、経過、転帰、などです。

調査期間

研究対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日

研究実施期間：倫理委員会承認後～2023年3月31日まで

研究成果の発表

結果を日本内科学会（またはその他の学会）で発表させていただきます、医学論文として報告させていただく予定です。

研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 臨床研究部長 富田正郎

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 臨床研究部長 富田正郎

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 臨床研究部長 富田正郎

TEL : 096-353-6501